

当院のパス事務局の活動状況 ～事務職としてできること～

松本 将典¹⁾ 藤井 大輔¹⁾ 佐藤 俊一¹⁾ 片岡 高史²⁾ 藤井 摂雄¹⁾ 時岡 浩二³⁾

はじめに

岡山市立市民病院は、中国5県の1つ岡山県の岡山市中心街より西約3キロ地点に位置している公立病院で、概要においては、2021年度実績で紹介すると、病床数400床、平均在院日数13.4日、クリニカルパス(以下、パス)作成数265件、パス適用率59.0%となっている。

当院では、2019年3月末日までパス委員会として院内で活動してきたが、パス委員会の活動が活発なことについて病院上層部から評価され、パスは病院の生命線をスローガンに、2019年4月より、入退院管理支援センター内にパス開発支援担当という、院内の1組織体として新たに産声を上げることとなった。その組織体の事務的活動について今回報告する。

パス委員会時代の活動

組織構成は、医師9名(内科系3名、外科系3名、感覚器系3名)、看護師15名(各部署)、薬剤師1名、理学療法士1名、管理栄養士1名、事務職員7名(医事課1名、システム課1名、入退院管理支援センター1名、診療情報管理室4名)計8職種34名であり、事務局の活動内容は、大きく分類して①新規・改訂パスの作成支援と事務的監査、②新人・中途採用者への研修、③医師事務作業補助者への代行入力支援、④院内外へのパス大会の企画と運営、⑤各種統計資料の作成と報告の計5項目であった。

スローガンの詳細内容

パスは病院の生命線は、①チーム医療による質と患者満足度の向上、②適正で精度の高い診療記録、③病院経営戦略を支えるパス分析、④教育体制の4つの項目から成り立っている(図1)。

パス開発支援担当の活動

組織構成は、医師4名(内科系2名、外科系2名)、看護師5名、薬剤師1名、検査技師1名、放射線技師1名、事務職員5名(医事課4名、情報システム課1名)計6職種17名であり、事務局の活動内容は、パス委員会時代からの活動内容5項目に、①病院経営戦略を支えるパス分析、②パス大会の広報活動、③適正な診療記載への整備が業務強化項目として加わった。

事務局の所管とその役割

事務局の所管は、当院では医事課に配置しているが、パスを担当している5名は、それぞれが医事課や情報システム課の様々な業務と兼務して運営を行なっている。また、業務強化項目として加わった3つの項目を含めて整理し、①新規・改訂パスの作成支援と事務的監査、②パス大会の企画・運営および広報、③病院経営戦略を支えるパス分析、④教育指導およびその他の計4つに大きく再分類した。

まず、①新規・改訂パスの作成支援と事務的監査では、作成支援事項と監査事項の2項に分け、前者は、パス作成や改訂操作に関する質問、DPC期間に関する質問等が挙げられ、それらに対して回答する。後者は、各診療科ならびに各病棟から申請されてきた内容について、BOM(Basic Outcome Master)に沿った内容

1) 岡山市立市民病院 入退院支援センター医事課

2) 岡山市立市民病院 情報システム課

3) 岡山市立市民病院 循環器内科



図1 スローガン内容

が選択されているか、褥瘡や転倒転落等の必要最低限の文書が組み込まれているかを確認している。②パス大会の企画・運用および広報では、企画・運用事項と広報事項の2項に分け、前者は、パス大会開催に必要な開催方法の提案、会場・機材整備、院内外との現場調整が挙げられ、当院では院内パス大会を年間4回、院外に向けた公開パス大会を年間1回の計5回のパス大会を開催している(図2)。後者は、院内各所にある掲示板の内容作成、パス

開発支援担当専用ホームページの更新が主となっている。③病院経営戦略を支えるパス分析では、新規・改訂パスの作成支援と多少重なる部分があるが、診療報酬的に追加すべき項目の提案、他施設比較(ベンチマーク)が主となっている。また、分析するにあたり、当院はヒラソル(株式会社girasol、東京)を採用しており、具体的な分析手順としては、まず分析対象期間を定め、その対象期間の退院患者からDPCコードとパス適用患者を紐づけ、さ

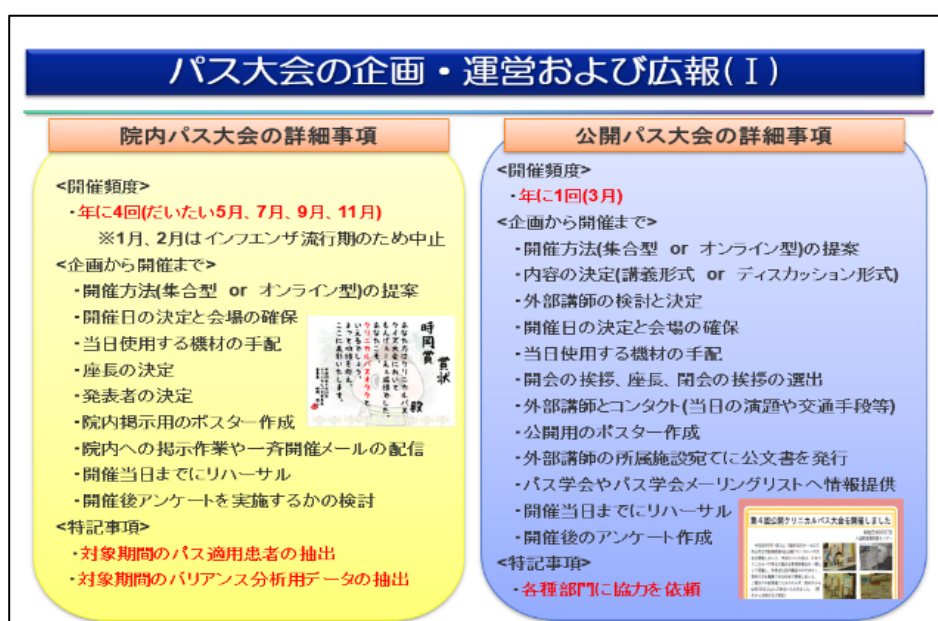


図2 パス大会の企画・運用

らにパス適用患者から最も使用頻度の高いDPCコードを抽出する。そこから、DPCコード別に定められた期間日数とパスの設定期間と比較し、作成しているパスの設定期間が本来妥当なものなのか否かを検証し評価している。また、算定実績に基づいて、現在作成されているパス内容と比較を行ったり、他施設の算定実績と当院のパス内容との比較を行ったりと、診療報酬改定の2年ごとにすべてのパスを見直し評価を行っている(図3)。評価のフィー

ドバックに関しては、各診療科長および各診療科のパス作成に携わっている担当医師へ行っている。④教育指導およびその他では、教育指導事項と統計その他の2項に分け、前者は、新人・中途採用者へ向けてのパス操作研修、医師事務作業補助者へ向けてのパス操作研修、医師ならびに看護師にパス中止および終了の操作教育等が挙げられる。後者は、院内外に向けての統計結果報告、予算要求、パス会議(準備を含む)等が主となっている。

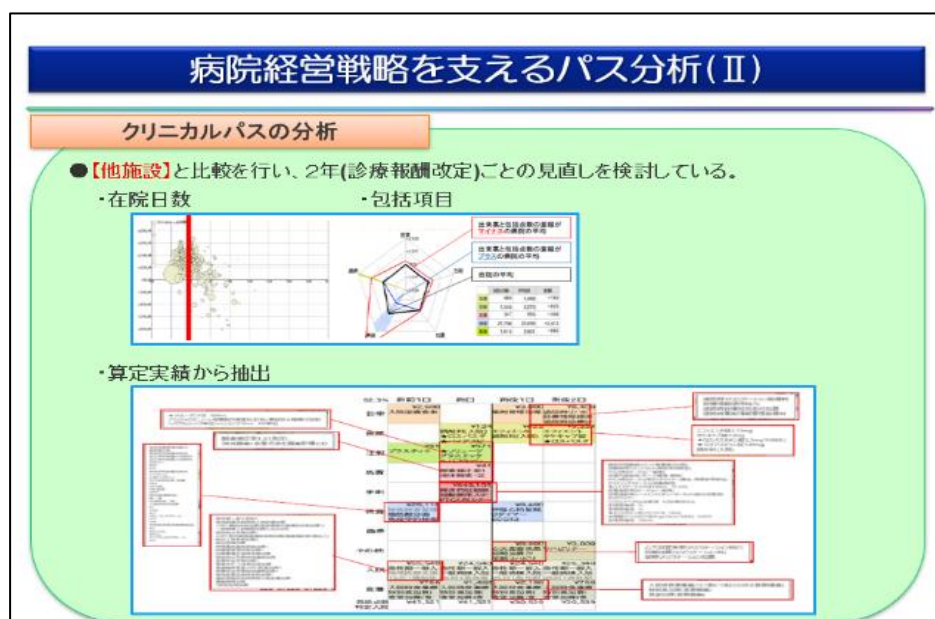


図3 クリニカルパス分析

このように、①～④までの業務をさらに細かく細分化してみると、計62項目にも上り、パス開発支援担当の組織内において、横断的組織の根幹を担っているといえる。

考察・結論

委員会から1組織体になったことで、活動内容も院内でより明確となった。パスに携わる事務職は、診療ガイドラインや看護ケア、算定そしてシステム等、幅広い領域の仕組みが理解できるようになり、それぞれの専門的なテクニカルな部分、多職種と業務を進めていく上で、交渉や調整、指導などといったヒューマン的な部分の2つのスキルが身につけるこ

とが出来ると推測する。また、事務職が5名もいることで、お互いの業務も補助することが可能で、処理精度や効率もよくなった。パスに携わる事務職は、事務としての領域を超え、特殊な事務職員ではないかと考える。

今後ますます医療の質の向上や経営戦略等のニーズが強まり、よりPDCAサークルを巡回させるようになった時、その土台として迅速でかつ順応に対応してゆく所存である。

本論文内容に関連する著者の利益相反：なし